

鉄道事業運送事業に関わる労働組合と意見交換を展開！

～「貨物鉄道モーダルシフトPT」第4回会合～

JR連合は、6月10日、議員会館において貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト（以下PT）第4回会合を開催した。

今回は鉄道事業運送事業従事者との意見交換を目的として、関係する労働組合の方々から鉄道貨物に対するご意見、ご要望を承る場として開催された。会合には、座長の榛葉賀津也参議院議員（静岡県）、アドバイザーの東京女子大学竹内健蔵教授、貨物鉄産労及びJR連合が出席した。



冒頭、主催者を代表してJR連合坪井会長から、「鉄道貨物の太宗をなすJR貨物にとって、フォワーダーの皆様との関係は極めて重要である。JR貨物に対するご意見ご要望を本日拝聴させていただき、私たちが今後策定する提言に盛り込んでいきたい」と述べた。

PT座長である榛葉参議院議員は、「国会議員の一人として今後の物流行政を考えるに、鉄道貨物の果たす役割は大いに考えている。しかし鉄道貨物だけでは物流は完結せず、鉄道事業運送事業者との連携の上に立った施策のあり方を考える必要がある。そういう観点から、是非とも忌憚ない意見をお出しただければ幸いです、頂いた意見を今後の政策立案に活かしていきたい」と述べた。

その後、全日通労働組合様及び交通労連様から、JR貨物に対するご意見ならびにご要望を賜った。両組合からは現在のダイヤ設定に対する要望、列車遅延への対応、輸送品質、ターミナルやコンテナに対する要望、営業活動、運賃料金に対する意見など、広範なご示唆を受けることができた。また、物流業界を取り巻く厳しい状況、とりわけ運賃料金が極めて低位に置かれている点について共有認識を図るに至った。

私たちは物流全体の底上げ、そして物流最適化を図る上での鉄道貨物の役割を模索している。そうした視点に立ち、今回の会合で頂いた貴重なご意見を踏まえ、鉄道貨物のあるべき姿を同PTにおいて議論を展開し、提言を取りまとめていくこととする。